

2017年度 森泰吉郎記念研究振興基金 研究者育成費 報告書
マルチサイトド・エスノグラフィーとビッグデータ分析による
パレスチナ人ディアスポラの実態に関する研究

学籍番号：81524831

政策・メディア研究科 博士課程1年（GR）

ハディ ハーニ

1. 研究概要

本研究は、世界中に離散しているディアスポラのパレスチナ人の動向について明らかにするものである。ディアスポラのパレスチナ人は中東諸国を中心に 600 万人ほど存在するが、伝統的なフィールドワークのみでは、離散したコミュニティに対する横断的調査が困難なため、先行研究はディアスポラの全体を包括できていない。そのため本研究では、ディアスポラ研究の各拠点（ヨルダン・レバノン）にて、フィールドワークとビッグデータ分析を中心に行い、既存の問題点を乗り越えつつ、より包括的でリアルタイム的なディアスポラ研究を行うことを目指す。また先行研究は彼らのアイデンティティ形成にのみ着目してきたのに対し、本研究はより具体的な政治的影響力や、行動の在り方を明らかにすることを射程に含める。

2. 成果報告

2017年度の森泰吉郎記念研究振興基金の助成によっては、調査機材および重要参考文献の購入が可能となった。主に、世界中におけるパレスチナ人ディアスポラに対する貴重なインタビュー調査結果や写真・映像記録資料等、本研究を実行する上で重要なリソースを確保することができた。また本研究の一部は国際政治学会の学会誌『国際政治』に投稿を完了し、現在は査読結果の通知を待っている（ハディ ハーニ「パレスチナ問題における「解決策」の限界—パレスチナ知識人の視点からみた行き詰まりと将来—」）。加えて、主に日本国内で開催されたパレスチナ問題に関するワークショップや研究会への参加も積極的に実施した。これらの成果により、研究課題に関する調査研究の蓄積と、今後の研究において有益となる国際的な学術交流ネットワークの構築が可能となっている。

3. 今後の展望

パレスチナ問題研究の中でも、先行するディアスポラ研究においては、それぞれのコミュニティが独自の性質を持つものとして細分化され、相互の関係性が断たれた状態で描写されてきた。そのため彼らは、例えばユダヤ系ディアスポラなどとは異なり、パレスチナ問題のひとつのアクターとしてのプレゼンスをほぼ無視されてしまっていることに大きな問題意識を感じている。本研究は今後も先進的かつ SFCらしい研究の手法を積極的に用いるこ

とで、これまでにない視点からパレスチナ問題の解決に切り込んでいくための知見を提供していきたいと考える。

4. 謝辞

今回の助成金は主に重要資料の購入資金と使用することで、有意義な研究活動を行うことができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。今後さらに有用な研究となるように精進する所存であります。報告書は以上となります。ご覧いただきありがとうございました。